

あまいうだより

～天竺便り～

第6号 2011年3月発行

INDEX

- P1 木ガニック・ランチ
- P2 おうちカフェ / 子育て日記
- P3 本の紹介
- P4 ごはん大好き / 安土子フェスティバル

ミズ オーガニック・ランチ・レポート 第3回

彦根市「朴MOKU」(護国神社敷地内) TEL 0749-22-0839

彦根城のお堀の側、護国神社境内に建つ『朴』。その名の由来の通り、素朴なお店です。表には、石罅の木箱、旧式オープン、石臼、木桶、古い浴槽・・・見捨てられたもの達が、息を吹き返し、店をレトロに装飾しています。神社の無料休憩所として建てられ、築 100 年以上の歴史を持った建物、扉を開けると、なんとなく懐かしい気持ちがしてきます。

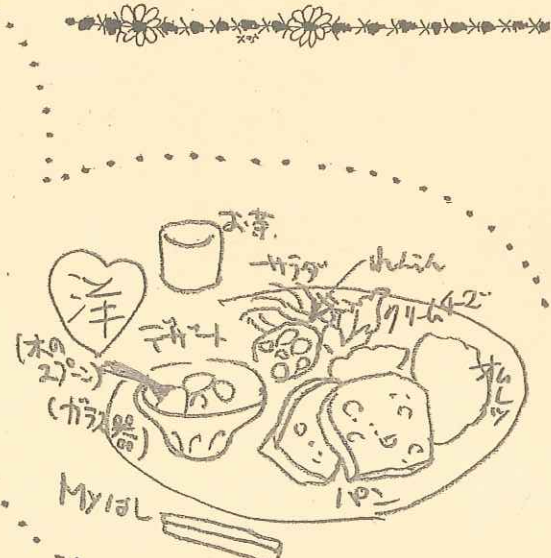
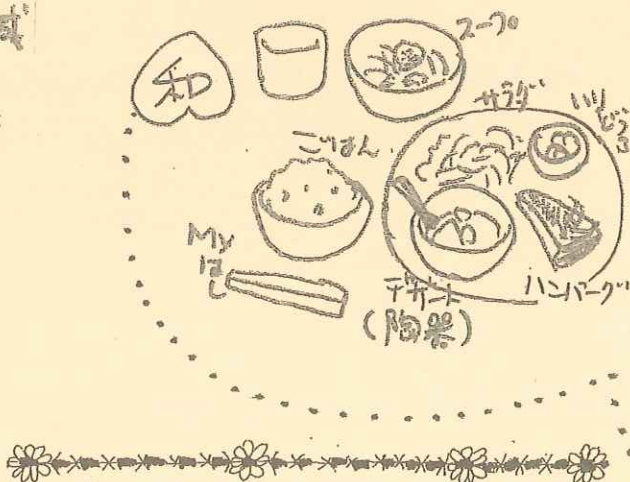
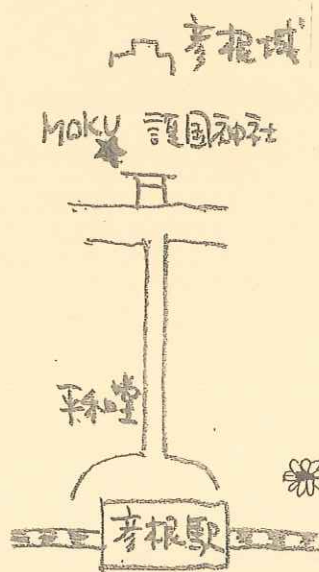
ランチは、2種類 洋風・・・全粒粉とナッツのハーブパン・オムレツ・サラダ・いもとレンコンチップス・クリームチーズ・柿と栗と黒糖ロールのデザート

和風・・・五穀米・合い挽き肉のつみれ入りやさいたつぷりのスープ・カレー味里芋ハンバーグ・サラダ・れんこんと人参ときのことごぼうと赤こんにやくとかぶの葉の炒りとうふ・みかんと柿と栗と豆乳プリンデザート

おかずは、いずれも手作り感あふれる大皿にもられて、どれからいただくかとまよってしまいます。幾種類もの野菜が使われ、オーナーの健康への心配りがしっかりと・・・くろもじ入りの香ばしいお茶も体を喜ばせます。お値段は¥892 (my はし持参で ¥840)

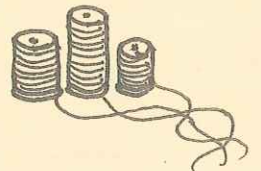
今年 1 月から改装工事が行われ、2 月 11 日リニューアルオープン、座敷席とのしきりが取り除かれ広々と、真ん中には 1 枚板のでかいテーブルが、さらに、テーブル席の床もきれいに・・・新しい『朴』に乞う期待！！

内藤 寿美子



☆おこもり

第4回草津市「タヴェルナ・カッパ」さんに行ってきました。が、残念ながら 掲載はNG。
「口コミでお願いします」とのこと、HPで調べるか、誓いびの湖までお問い合わせください



今回は伊吹山が見える、米原志賀谷の「クチートとみおか」にお邪魔しました。(クチートは裁縫というイタリア語です)ここは理事である富岡尚子さんの自宅ショップです。その店舗部分は、もともとお義母さんが床屋さんをされていたところを、家族皆で床に板を張ったり、壁にペンキを塗ったりして改装されたとか。それは、お金をかけて仰々しく起業したのではなく、その地域に無かった学生服・指定体操服を扱って欲しいという依頼を受けての出発と、ご自分の得意な裁縫技術を役立てたいとの思いからの、リフォーム&手作り店の起業です。

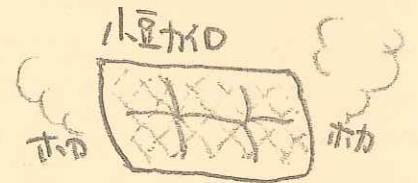
ですから、店内に置いてある6台ものミシンも中古を揃えたり、体操服のネーム刺繍だけのミシンがあったりする。それはお古を着る子どもの爲に、名前を付け替えるという暖かい心の作業なのです。また、店内の作業台や受付台等も、整理ダンスの引き出しを外して、再利用されているという徹底ぶり。

そして、私達へのプレゼントは何と「あずきカイロ」というアイデア商品。ネルの布に包まれた小豆には、痛みを取る作用があるとかで、肩や膝に温めて置くと、じんわりと暖まって気持ちいい。その他に自家菜園、地域の行事、子育ての話等に短い時間はあっという間に過ぎてしまいました。

あっそうそう、お茶菓子に頂いたおいしい「米ぬかケーキ」と「米ぬかクッキー」の材料を知りたい方は、問い合わせして下さいね。これも再利用。素敵！

浅野博子

問合せ先：クチートとみおか TEL 0749-55-0825



ねぎさんの子育て日記 「かせの功名」.....



1歳3ヶ月をこえた息子は、よく歩き回り、目にとまったものに指をさし、「おー」と声をあげる。ずんずんと育ち、ありがたいことだ。ひとつ、夜泣きだけが、なかなか無くならず、つれあいの睡眠不足も解消されない。

そんな2月半ば、すこし早い春めいた陽気ののちに雪が降り、世間では風邪が流行。わが家も、息子の鼻水にはじまり、寝不足のつれあいがダウンし、それが回復したころ、今度は私がダウン。1日寝込んだ後、だましだまし出勤しつつ、いつもより早くあがり、家でも早々に就寝。というペースがしばらく続いたら、あら不思議、息子の夜泣きがおさまった。もちろん、夜中に何回かは目を覚まし乳は吸うが、寝付きがよくなり、つれあいもう方ぶりに長めの睡眠を得られた。(つれあいによると、昼間の機嫌もよいことが多くなり、昼寝も減ったそうだ)

普段、仕事で遅くなることが多く、息子もそれに引っ張られて就寝が遅くなりがちだったことを思い返しハッとした。

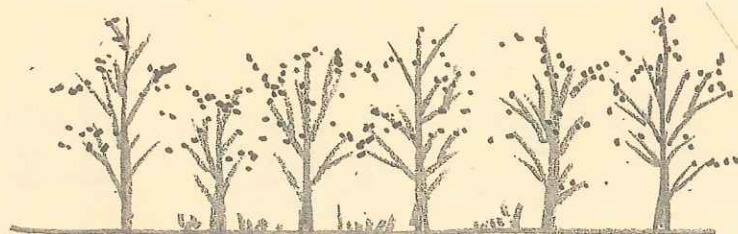
根本山恒平

「市民共同発電所に向けての勉強会」報告

1月16日、野洲のコミセンにて市民共同発電所に向けての勉強会が行われました。講師は、長い間市民共同発電所の設置や自然エネルギーの普及に携わっておられる中川修治氏。当日は、スウェーデンの電気事情の映像を見たあと、中川さんより日本の電気事情等の講義を頂きました。質疑応答のあと、最後に参加者の自己紹介とともに、それぞれのあつい想いや個人の現状等をきくことができ、とても素敵な会になりました。

中野和子





《ジェーン・グドール著「森の旅人 (REASON FOR HOPE)」 角川書店》

この本は、世界的な霊長類学者ジェーン・グドールの自伝的な「魂の遍歴」が描かれたものだ。

小さい頃から自然の中で遊び、自然に触れ、自然に感嘆し、自然に癒されてきたジェーンは、学歴もなくアフリカに渡りチンパンジーの研究を始めるのであるが、学歴がなかったからこそ、彼女の感性は研ぎすまされていた。動物に対する人間の功罪、地球に対する人間の功罪、そして人間同士の争いに心を痛め、人間の存在意義を問う。二足歩行をした人間だけが、文明を持ち、科学を発達させ、自然を破壊し、動物を殺し、大量破壊兵器を持つに至った、そして、気候変動で地球の存続が危ぶまれるこの状況を作った人間は、いったい何のために存在しているのか？ 神はいるのか、科学とは何か、人類はどこへ向かっているのか・・・と。人間によって荒らされた地球や動物、自然を目の前に、しかしそれでも望みはがあると、彼女は考える。会う人会う人に、絶望や疲れを感じながらも「動物にだって心はある、この地球は人間だけのものではない、共存する方法はいくらでもある」と相手を尊重しながら心をこめて説得する姿には、感動を覚える。

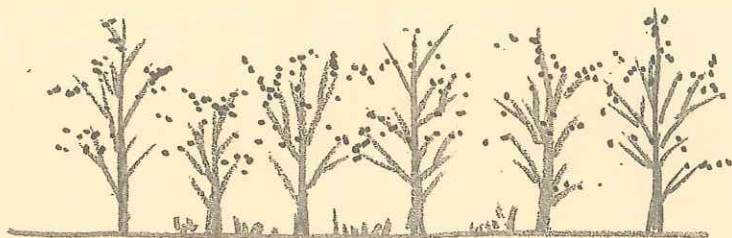
そして「第15章 希望」では、次のように言っている。

「消費者は選択権を行使し、なにを買うか、なにを買わないかを選ぶことによって・・・企業や産業の倫理を変えさせることができる。わたしたちひとりひとりの貨幣や小切手やクレジットカードには、現実を変えるだけの潜在的な力がひめられているのだ。わたしたちは遺伝子組み換え食品、大量生産の肉、熱帯雨林を伐採してつくった家具を買えと強制されているわけではない。ちょっと探せば、無農薬、有機栽培の食品や放し飼いのニワトリのたまごを買うことができる。でもそれは高くつく、という人がいるだろう。たしかに多少は高くつく。しかし、・・・高くついたそのわずかな差額で子どもたちの未来を買っているのだとかがえればいい。」(P.276)

これはまさに、碧いびわ湖の理念だ。牛乳パックを集めリサイクルしてティッシュをつくり、ちょっと高いかもしれないけれどそれを買って、子どもたちの未来を保障したいと思うのだ。環境汚染を引き起こす農薬を使わずに作ったお米を、手間隙かけて作ってくださった農家さんに感謝して、ちょっと高いかもしれないけれどそれを買うという選択をして、子どもの未来を買っているのだ。

すでに日本の川はどこもかしこも護岸工事が施され、山には鉄塔が建ち、木々は電柱より高くなると切られる。雑草が生えれば親の敵とばかりに抜かれ、除草剤を撒かれ、コンクリートが敷き詰められる。自然が自然のままの姿を残していない日本で、ジェーンのように自然に癒されることは困難だ。しかしこの理念だけは捨てずに、「買い物が世界を変える」ことができるよう、多くの人とこの知恵を共有したいと思う。

中野和子



シリーズ最終回

「出合いがむぐ、食の気づき」

ニッはん大好き♡

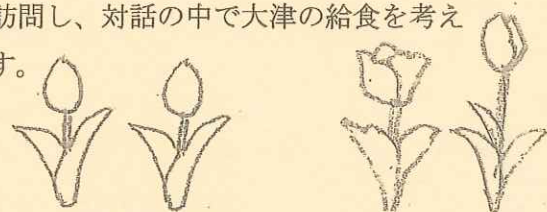
(大津市「こめっこ」 深田 麗奈 さん)

買い物をする時、原材料などの表示ラベルは見たこともなく、100円の醤油を特売で買っては、「やった！安かった。」と思っていた結婚当初。食費をおさえることが最重要で、その他のことは、気にもとめていませんでした。妊娠が分かり程なくして、水を飲んでも吐くほどのものすごいつわり。2ヵ月ほとんど食事もせず、入院もしました。そんな時、祖母が散歩先で見つけた「つわりの方、ご相談下さい」と書かれた助産院の看板。孫に知らせないと！そう思ってくれたおかげで出会えた助産院。「どんなお産をしたいか」そんなことは考えたこともなかったけれど、助産院との出会いが徐々に、食や生き方を見直すきっかけになっていきました。本物の調味料を使うようになり、添加物の存在を知り、動物性の食事が減り、地元の旬の野菜を食すようになり……。母乳育児を通して学ぶことも多くありました。この頃、幕内秀夫さんの講演会を聞きました。初めて出会う「主食を変える。ご飯とパンは違う」という話に、「そうか、そうだよな」と目覚めた思いでした。その日配布のチラシの中に「学校給食を米飯に変えた栗東市のお母さん達の話聞きませんか」というものが。講演会場は城陽。講師は栗東。その頃栗東に住んでいた私は、それならばと会主催の方に連絡先をお聞きして、直接講師に連絡。これが「paddy」との出会いでした。（「paddy」の母親達が行政に働きかけ、学校給食を完全米飯化した・H18）

メンバーに加えて頂き、ご飯の大切さをますます学び、我が家の朝食もご飯に変わりました。大津に引越し、私も給食の米飯化へむけて活動していく！と決めた時、仲間ができ、昨年9月、「こめっこ」を立ち上げることができました。大きな柱というか、願いは学校給食米飯化ですが、子育て中のお母ちゃんと食を中心につながる会でありたいと思い、味噌作りをしたり、手軽な常備菜でお弁当づくりなど、月1回の定例会（第2水曜午前）で、のんびり集まり色々お話しています。

まだまだ、動き出したばかりの「こめっこ」、今年は給食センターに訪問し、対話の中で大津の給食を考えながら、「こめっこ」の会としての実績をつんでいきたいと思っています。

安土っ子フェスティバル・レポート



11月20日、安土小学校で行われた安土っ子フェスティバルに、牛乳パック紙漉き体験コーナーとして、出店しました。牛乳パックに使われていたパルプが、再び葉書きとなって生まれ変わって行く様子を体験してもらおうコーナーです。

漉き枠を持つ手には、ワクワクした思いが、押し花や切り紙など葉書きの模様選びにも真剣な眼差しが、感じられました。

今回は、子どもたちだけでなく、大人も自分だけのオリジナル葉書き作りに夢中になっている姿に出会えました。出来上がった作品を目にして、たくさんの笑顔が生まれました。この体験を通して、牛乳パック回収の意義を再確認していただけたのでは、と思っています。 内藤 寿美子



「碧いびわ湖」情報紙「あまいろだより～天色便り～」第6号

発行日 2011年3月10日

編集 びわこ未来プロジェクト

発行

特定非営利活動法人

碧いびわ湖（旧滋賀県環境生活協同組合）

521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦3番地

TEL0748-46-4551/FAX0748-46-4550

Eメール info@aoibiwako.org

びわこ未来blog更新中～♪

http://aoibiwako.shiga-saku.net/（滋賀咲くブログ）

